

租税教育の事例集（中学校版）

～租税教育の充実に向けて～



平成 27 年 4 月 発行

（令和 5 年 6 月 一部改訂）

租税教育推進関係省庁等協議会

○はじめに

1 租税教育は、なぜ重要なのでしょうか

国民生活や経済社会と密接に関連する税は、私たちの暮らしや社会に欠かせない多様な公共サービスを提供する国や地方公共団体の活動の財源であり、国の様々な制度の中でも根幹的なものです。

憲法で国民の義務に掲げられているように、国民が教育を受け、勤労し、税を納め、持続可能な社会を作っていくことは、民主国家の維持・発展にとって欠かせないことであり、次代を担う児童・生徒等が、国の基本である税の役割や申告納税制度の意義、納税者の権利・義務を正しく理解し、国や社会の在り方を主体的に考えることは、民主国家の維持・発展にとって極めて重要なことであると考えられます。

また、教育基本法は、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」（第1条）と定めているとともに、教育の目標について、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」（同法第2条1項3号）と定めています。社会や国を支える税の意義や役割を深く理解し、税を通して社会や国の在り方について考える租税教育は、正に教育基本法の理念に基づいた教育であると考えられます。

2 租税教育の充実に向けた取組

文部科学省、総務省、国税庁は、平成23年に租税教育推進関係省庁等協議会（いわゆる「中央租推協」）を発足させ、賛助会員である日本税理士会連合会の協力も得ながら、租税教育の推進に取り組んでいます。

全国各地においても、教育委員会など学校教育関係者、地方自治体、国税局・税務署、税に関係する民間団体の関係者の方々などから構成される租税教育推進協議会等を中心として、租税教室（出前授業）の開催や税の作文募集のみならず、例えば、職業体験施設における税務署の仕事や納税の体験、鉄道やバスに乗り税の関連施設を探す移動租税教室、教員を対象とした確定申告体験、税理士が母校で行う租税教室の開催など、様々な工夫を凝らした租税教育の取組が実施されています。

3 租税教育の事例集の活用について

平成27年4月、中央租推協では、教員等の意識啓発を図ることを目的とし、全国で行われている租税教育の優れた取組事例などを基に、監修者の先生方の御指導・御協力をいただき、事例集を作成しました。

その内容は、学習指導要領及び同解説の記述を踏まえたものとし、その構成は、①税の授業の経験が少ない方には創意工夫を生かした授業づくりに活用できる学習指導案を、②税の授業の経験が豊富な方には授業づくりのヒントとなるページ（素材やそのつかませ方を例示した教材化の視点）を、③更には発達の段階ごとの学習内容を一覧に整理した体系図を添付するなど、租税教育に関係する様々な立場の方に広く御活用いただけるつくりとしています。

租税は、社会との一つの接点であり、児童・生徒に社会と自分との関わりを具体的に理解させる観点から、社会科、公民科以外の時間にも取り扱うことが考えられます。この事例集を広く関係者の方々に周知・配布していただき、よりよい租税教育の授業づくりのため、関連する教科・時間などにおいても、是非、御活用いただきますようお願い申し上げます。

○ご利用に当たっての留意点

- ・各事例の学習内容や指導方法は、税についての学習内容や方法等を限定したものではなく、また、税に関する理論等を定めたものでもありません。児童・生徒の実態等に応じて、創意工夫を生かして御活用願います。
- ・体系図は、租税教育の学習内容等を限定するものではなく、取り上げる順番も固定するものではありません。
- ・事例集に記載している「副教材」とは、各地域の租税教育推進協議会等が、地域の情報を取り入れながら工夫して作成している補助教材を指しますが、各事例の学習内容に全て対応しているものではありません。

○監修

事例集の作成に当たり、以下の方々に御指導、御協力を賜りました。

（敬称略、50音順。学校名・職名などは平成27年3月末現在。）

- ・和歌山大学准教授 岩野 清美
- ・横浜市立丸山台小学校教諭 大久保 房代
- ・東京都立国際高等学校教諭 宮崎 三喜男
- ・大阪市立蒲生中学校校長 吉 信 勝之

目次

【中学校】

- 事例1 「政府の働きを支える税の役割とその仕組み」** 3
➢税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例
- 事例2 「私たちの生活と税の役割を考える」** 5
➢外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例
- 事例3 「公平な社会って何だ？」** 7
➢税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

【参考】

- 参考1 租税教育の体系図**（発達の段階と領域、学習内容） 10
- 参考2 中学校の学習内容と教材化の視点の例** 11

○発達の段階ごとに多く行われている授業や取組の例

- ・中学校では、DVD を視聴し、税の必要性を理解するほか、グループ討議などを行い、日本の財政の現状や課題について考える授業などが多く行われています。

○国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の紹介

検索サイトで **税の学習コーナー** を入力 ⇒

- ・学習ページ（入門編、発展編、応用編、実践編）
 - ・租税教育用教材（租税教育の事例集、ワークシート Word 版、パワーポイント教材、講師用マニュアル）
 - ・ビデオライブラリー
 - ・ゲーム・クイズ
 - ・税の作文（受賞者発表など）
 - ・絵本・かみしばい
 - ・各国税局学習コーナー
- などを掲載していますので、御活用ください。



【中学校】事例1 「政府の働きを支える税の役割とその仕組み」

ポイント➤ 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・公共サービスの財源を賄う税の意義・役割や基本的な仕組みを理解する。
- ・政府の経済活動(財政)に対する関心を高め、社会資本の整備、社会保障の充実、環境の保全など市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して政府が果たしている役割や、日本の財政の課題を理解する。

○評価規準

- ・税の意義や役割、基本的な仕組みを理解している。(知識・理解)
- ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題を具体的に考えることができている。(思考・判断・表現)

○指導計画 (5時間・各1時間)

第1時 政府の仕事と租税<本時>

第2時 財政の働き

第3時 社会保障と国民の福祉

第4時 公害の防止と環境保全

第5時 日本経済の課題

○本時の学習 (1/5時間)

	学習活動・学習内容	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<p>1 「税の意義や役割について、自分の言葉でまとめてみよう。」</p> <p>2 身近な税の使いみち(学校教育費)</p> <p>・公立学校に通う生徒一人当たりの年間教育費(国と地方公共団体の負担額)を予想する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>小学生</p>  <p>約 975,000 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学生</p>  <p>約 1,122,000 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>高校生(全日制)</p>  <p>約 1,063,000 円</p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">(令和2年度)</p> <p>・月謝に置き換えると、毎月約9万3千円が必要となることを知る。</p> <p>・教育費にかかる国や地方公共団体の歳出金額を調べる。</p> <p>・国や地方公共団体が教育費を負担(支出)している根拠を調べる(憲法第26条第2項「義務教育は、これを無償とする」)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示する。 ☆国税庁HP「税の学習コーナー(発展編)」、副教材 ・歳出金額をイメージさせるために、100万円の束が1cm、1億円が1m、1兆円が10kmなどと考えさせる。 ・教科書裏表紙の記述「国民の税金で無償で支給」に気付かせる。
展開	<p>3 税の役割</p> <p>・税金が使われている施設を挙げ、それらの共通点を考える。</p> <p>→「街のみんなが利用する」、「営利目的ではない」、「街に必ず必要」など</p> <p>・政府の役割は、利潤を追求する民間では供給されにくい公共施設や公共サービスの提供にあり、その建設や運用の費用には税金が使われている(税は公共サービスの財源である)ことを理解する。</p> <p>4 税の必要性</p> <p>・DVDを視聴し、税のある暮らしとない暮らしとを比べ、税がなければどのような社会になるのかを考え、税の必要性を理解する。</p> <p>・納税者が納税の義務を果たさなかったらどうなるのかを考える。</p> <p>→公共サービスを賄う財源が不足し、税のない社会と同じになることに気づき、納税の義務を果たすことの大切さを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスは、私たちの暮らしに欠かせないものであること、その提供には費用がかかり、税はその費用を賄うものであることを理解させる。 ☆国税庁DVD(「ご案内します アナザーワールドへ」(15分57秒))

<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・税は、公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分ち合うことが必要である。このため、税は「社会の会費のようなもの」であると言えることを理解する。 <p>5 税の仕組みや種類・分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社員の一日の生活の例から、どのような税が関わっているのか、どのような税の種類があるのかを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【家】住民税（住むこと）、固定資産税→【会社】法人税、所得税（給料）→【外出】自動車税、ガソリン税（揮発油税）、消費税（買い物）、相続税（葬儀場）→【帰宅】酒税、たばこ税</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・税の基本的な仕組みや種類・分類などを理解する。 <p>【所得税】</p> <ul style="list-style-type: none"> →会社員の所得税は、会社が毎月給料から差し引き、年末に1年間の税額の過不足を精算する（年末調整）。 →事業者などの所得税は、1年間の所得や税額を自分で計算し、確定申告の時期に申告・納税する。 <p>【消費税】</p> <ul style="list-style-type: none"> →生徒は、物を買う都度消費税を支払っているが、税務署への申告・納税は、お店が確定申告の時期などに行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・消費税のように負担者と納税者が異なる税は間接税、所得税のように一致する税は直接税に区分されることを理解する。 ・これまでに学習した税の種類や分類（直接税と間接税、国税と地方税）を整理する。 ・所得税など国税は、自己の所得等を最も正確に把握している国民が自ら税額を適正に計算し申告と納付を行う申告納税制度（自発的に納税義務を履行する民主的な税制度）であることを理解する。 ・税の公平とは、税を負担能力に応じて分ち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> →等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をするという考え方（消費税など） →負担能力の大きい人はより大きな負担をするという考え方 <p>（所 得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。</p> <p>6 選挙と税</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の選挙の争点を調べ、税との関わりを考える。 <ul style="list-style-type: none"> →選挙の争点の多くは、税の使いみち（どのような政策を行うか）や税の集め方（その財源をどのように確保するか）に関わる問題であることに気付く。 ・税の使いみちや集め方は、国民が選挙により選んだ代表者が国会で決めていることを理解する。 ・主権者である国民が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解する。 ・自らの代表が国の支出の在り方を決めることと自らが国を支える税を負担しなければならないことは、表裏一体であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公平」、「社会の会費のようなもの」などのキーワードは板書し、認識の共有化を図る。 <p>☆イラストなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活と税が密接に関わっていることに気付かせる。 <p>☆国税庁HP「税の学習コーナー（発展編）」、副教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-Tax など ICT を使って確定申告や納税ができることに気付かせる。 ・生徒も消費税を負担している税の負担者であることに気付かせる。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「公共サービスの費用は、広く公平に分ち合う必要がある」と学習したことを再確認する。 ・公共サービスの財源を賄えるよう、また、負担が公平になるよう多くの税の種類が組み合わせられていることに気付かせる。 ・総務省・文部科学省作成副教材「私たちが拓く日本の未来」活用のための指導資料（指導上の政治的中立の確保等に関する留意点）の記載に留意する。 <p>☆新聞記事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙に関する新聞記事を活用し、地方創生、教育・子育て、福祉、復興、増税・減税などのヒントを出しながら考えさせる。
<p>まとめ</p>	<p>7 本時のまとめとして、「税の意義や役割について考えたこと」をワークシートに自分の言葉で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の言葉でまとめさせる。

【中学校】事例2「私たちの生活と税の役割を考える」

ポイント▶ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・身近な例を通して生活と税の関わりに気づき、税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを理解する。
- ・社会の一員（税の負担者）として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動（財政）に関心を持ち、政府の役割や財政の在り方について考え、意見を持つことの大切さを理解する。

○指導計画（5時間・各1時間）

第1時 私たちの生活と税の役割<本時>

第2時 私たちの生活と財政

第3時 国の支出と収入

第4時 社会保障と私たちの生活

第5時 社会資本の役割と環境への取組



○本時の学習（1／5時間）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の展開についての説明を聞く。 ・ワークシートの本文を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を朗読する。
展開	<p>1 ワークシート（課題1）</p> <p>① 各自が（課題1）の「予想」欄を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入後、複数の生徒が予想を発表し、意見交換を行う。 <p>② 米国テネシー州サウスフルトン市の消防の仕組みの説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要があること、市長の「消防活動は市が提供するサービスでサービスを受けるか受けないかは住民の自由である」という考え方を知る。 ・「正解」欄に「Aさんは、消防のサービスを受けるための費用を払っておらず、Bさんは払っていたから。」と書く。 ・正解を聞いてどう思ったか、複数の生徒が感想を発表する。 <p>③ 日本とサウスフルトン市との違いを考え、班ごとに意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では、消防活動の費用は無料である。 ・日本では、消防活動の費用は税で賄われており、消防活動は納税の有無にかかわらず行われる。 <p>→国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民みんなに広く提供されており、その費用は税という形で社会の構成員である国民が広く分かち合って分担していること、憲法には納税の義務があることを理解する。</p> <p>2 身近な生活と税との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の一日の生活の例を通して、自分たちの生活と税の関わりに気づき、税は自分たちの暮らしを支え、生活に欠かせないものであることを理解する。 <p>（起床）洗面や調理に使う水・上下水道の整備⇒（登校）学校に通うための道路や信号⇒（授業）学校など教育施設の建設、机・椅子・教科書⇒（部活動）陸上競技場や野球場などの施設作り⇒（だんらん・夕食）安全な食品を作る農業・漁業の支援⇒（就寝）夜の安心、日々の安全を守る警察や消防</p> <p>3 ワークシート（課題2）</p> <p>発問：「もし、国民が税金を納めなかったら（納税の義務を果たさなかったら）、どのようなことが起こるでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（課題2）について考え記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視し、記入の進まない者に助言する。 ・導入なので自由な発言を引き出し、雰囲気盛り上げる。 ・生徒の意見を受け説明を加える（公共サービスの負担の在り方や納税の義務などに関わる問題であること、日本は受益＝負担ではないこと、生徒も社会の一員として消費税を負担していることに気付かせる。）。 ・副教材やイラストなどを活用する。 ・国税庁HP「税の学習コーナー」（発展編）を活用し、国民一人当たりの警察・消防費（約43,179円・令和元年度）など具体的な金額を提示する。 ・学校や警察がどうなるか、具体例を提示して思考の足場を組ませる。 ・税がなければどのような社会になるかを考えさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「街・地域」では、どのような公共施設や公共サービスがあるのかについても考える。 ・記入後、班内で各自の意見を発表する。 ・納税の義務を果たすことの大切さを理解する。 <p>4 ワークシート（課題3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車の出動回数の増加に対して有料化すべきとの意見があることについて考え、賛成か反対か、理由も併せて記入する。 ・班ごとに賛成派、反対派に分けて意見を発表し、意見や質問があれば発表し、意見を交流する。 ・政府がどのような公共サービスを提供するのかは、最終的に住民や国民の意思（選択）により決定されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政府は市場の働きに委ねることが難しいサービスを提供していることに気付かせる。 ・税負担が当たり前とされる公共サービスを取り上げ、生徒自身が税の負担者として公共サービスの負担の在り方などについて考え、意見を持つことの大切さに気付かせる。
まとめ	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスの費用を賄う税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを学んだことを理解する。 	

○評価規準

- ・議論に積極的に参加し意見を述べ、異なる意見の存在を認めることができている。（関心・意欲・態度）
- ・公共サービスの負担の在り方について考えることができている。（思考・判断・表現）
- ・税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを理解している。（知識・理解）

○教材・資料（ワークシート ※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。）

学習日：令和 年 月 日	
「私たちの暮らしと政府の経済活動」	
（ ）年（ ）組（ ）番 名前	
<p>2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。</p> <p>Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。</p> <p>ところが、火事が起きているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないうちに、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。</p> <p>隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。</p> <p>現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。</p> <p>結局、Aさんの家は全焼しました。</p>	
予想	
正解は・・・	
学校では・・・	
警察では・・・	
街・地域では・・・	

【中学校】事例3 「公平な社会って何だ？」

ポイント▶ 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・「国民の願いを実現するため、納税者となって税金を納める」というシミュレーションを通して、公共サービスの財源を賄う税の役割、税の公平の考え方、日本の財政状況を理解し、総合的に考える。
- ・それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考え、判断する。

○指導計画 (2時間・各1時間)

第1時 「納税者になってみよう」<本時1>

第2時 財政の現状と課題 <本時2>

○本時1の学習 (1/2時間)

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体をワークシート(前提)①のA~G7グループに分け、各グループの立場を決める。 ・ワークシート(前提)の各人の立場、収入と願い、全体で必要な予算総額を理解する(①~④)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々には様々な願いがあることを知る。
展開	<p>1 ワークシート(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(前提)④の予算総額を念頭に置き、各人が収入からどのくらいの税金を納めることができるかを考え、その金額と理由を②、③に記入する。 ・グループ内で、各人が決めた納める税金の額を発表する。 ※180万円から20万円を納める生徒や、2,000万円から1円も納めない生徒もいる。 ・グループ内で、各人が発表した税金の額及び理由について話し合う。 ・グループ内で話し合った結果を発表する。 ・グループ間においても意見交換をする。 ※それぞれの税金の額を比べながら、「私より収入が多いのに税金が少ない」、「収入が多いのだから、もう少し納めてほしい。」など、生徒たちは様々な反応を示す。 ・各人が納める税金(②)を収入(①)で割り、それぞれの税率を計算し、④に記入する。 ・グループ内で、各人が計算した④の税率を比較する。 ・税率が同じ場合は、消費税に代表される水平的な公平となっていること税率が異なる場合は、所得税に代表される垂直的な公平(収入(所得))が多いほど税率が高い累進税率の場合)となっていることを理解する。 ・ワークシート(参考)の所得税の税率と④の税率とを比較する。 <p>2 ワークシート(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の収入には、(参考:所得税の税率)のどの税率が適用されるのかを確認し、①に記入する。 ・「税額の計算例」を参考に、納める税金を計算し、②に記入する。 ・(課題1)②の納める税金と(課題2)②の納める税金とを比較する。 <p>3 公平な社会とは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。 ※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしいと思う。 ※収入が多い人は損だと思うかもしれないが、「助け合いの心」だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の税負担を具体的に考えることにより、納税の実感を得させる。 ・言葉で伝えることで自身の価値判断の根拠を自覚させる。 ・他者の意見を聞くことで、異なる視点から物事を見つめ直し、自身の価値判断の根拠についても再考させる。 ・税の公平には、水平的公平と垂直的公平の考え方があることを示す。 ・水平的公平→等しい負担能力のある人(経済力が同じ人)は等しい負担をする(消費税や個人住民税は、税率は一定だが、課税対象額が多くなるほど税額が多くなる仕組み(比例税率)。令和4年4月現在)。

<p>※全員が同じ税金を納めるのは金額だけ見れば平等かもしれないけど、収入に応じた負担は平等ではないから、累進税率は良いと思う。</p> <p>※累進税率は賛成だけど、税率のバランスが悪いと思う。もっと高所得者の税率を高くして、低所得者の税率を下げた方がよい。</p> <p>※垂直的公平だと貧富の差がなくなるけど、やり過ぎると真面目に働く人がいなくなるので難しいと思った。</p> <p>※どちらもそれぞれに公平だと思う。それぞれに必要とされる場面が違うので、その場に応じた公平の適用が必要だと思う。</p> <p>※どちらの公平が正しいとか、どちらにすべきというものではないと思う。人によって考え方は違うので、公平というのは難しいなと思った。</p> <p>※結構な税金を払わなければならないことに驚いた。</p> <p>※両方の公平を上手く組み合わせるバランスを取ることが大事だと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・垂直的公平→負担能力の大きい人はより大きな負担をする（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。 ・社会全体の利益と個の在り方について総合的に考えさせる。 ・「公平な社会とは何か。」について自分なりの見解を持たせる。
---	---

○本時2の学習（2／2時間）

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をする。 	
展開	<p>1 「みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税収が足りません。さて、どうしたら良いでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税収が不足する場合の対処方法について考え、グループで話し合う。 ・意見を発表する（他者の意見を聞く。）。 <p>※増税する、公債を発行する、一部の願いを諦めるなど、様々な意見。</p> <p>2 財政に関する資料を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の財政の現状（深刻な財政赤字の状況や諸外国との税負担の違いなど）を知り、今後の日本の在り方について考え、意見を発表する。 <p>※必要なお金と集まるお金にこれほど差があるとは思わなかった。</p> <p>※税収が全体の半分くらいで、公債に頼っているのはよくないと思った。</p> <p>※少子高齢化に伴い、問題が生じていることは知っていたが、これほど影響が出ているとは知らなかった。</p> <p>※諸外国に比べ税負担は少ないので、もう少し増税してもいいのではないかと思う。</p> <p>※負担<福祉はうれしいけれど、公債によって負担を先送りするくらいなら国のサービスを減らせばいいと思う。</p> <p>※国の現状がよく分かって、国民の一人として真剣に考えていくべきだと思った。</p> <p>※日本は問題を先送りしていて、きちんと向き合っていないと思った。</p> <p>※完璧な社会を作り上げることは無理でも、公平な社会を作り上げていかなければならないと思った。</p> <p>※税によるサービスが充実しているのはうれしいけれど、借金で負担を先延ばしにしていることを知って少し嫌だった。将来の人に負担を押し付けないためには増税も必要だと思う。</p> <p>※みんなが税制について完璧に納得して、誰一人不満なく暮らせる社会が理想だけれど、それはとても難しいから、一人一人がどの程度の我慢をするかということを考えていかなければならないと思う。</p> <p>※今日の授業を通して、私たちも国民の一人として考え、意見を言うことができるようになって良かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は財政の現状を知らせず、グループの話し合いの中で独自の発想を引き出す。 <p>☆財務省 HP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を聞き、歳入と歳出のアンバランスや諸外国の現状等を知った上で、今後の日本の在り方について改めて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人々の願いは様々であり、主権者である国民一人一人が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解させる。

○まとめ(実践を終えて)

- ・みんなとても熱心にグループ討議を重ね、積極的に発言が出された。中でも、「一部の人が裕福で、一部の人が見捨てられるような国は嫌だ。」「たくさん税金を払っても、それが社会のためになっているのなら頑張ろうと思う。」など、思いやりの心や相互扶助の精神が強く感じられたことが特に印象的であった。
- ・他者の立場や社会全体の利益に配慮し、「みんなの生活が良くなるように」という視点で物事を捉える姿勢には感心するものがあった。
- ・生徒間の議論を通じ、様々な価値観に触れることで、自分自身の考えについて見直すきっかけにもなったようにも感じられた。
- ・これからの社会を担う生徒たちに、今後も税を通して社会の在り方について考えるきっかけを与えることができればと思う。

○教材・資料 (ワークシート ※Word 版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。)

(前提)

① 各人の立場	②各人の収入 (所得)	③各人の願い (例)	④③の政策に 必要な予算額
高齢者のAさん	250万円	医療費負担の軽減、介護支援等 ＝高齢社会における社会保障	※6,800万円
育児中のBさん	500万円	子育て支援(児童手当、育児環境 整備)など＝少子化対策	1,600万円
フリーターのCさん	180万円	雇用創出、企業への補助金支給 など＝生活保障と経済効果	3,800万円
企業経営者のDさん	2,000万円	景気回復など＝景気の安定化	7,200万円
災害に遭われたEさん	800万円	住宅確保、インフラの復旧など ＝災害時の社会保障	5,300万円
持病をもっているFさん	350万円	医療費負担の軽減など	(※に含まれる)
介護をしているGさん	1,000万円	介護休暇制度の充実など	(※に含まれる)
合計	5,080万円	—	2億4,700万円

(課題1)

各人の立場	①各人の収入 (所得)	②納める税金	③理由	④税率 (②/ ①)
Aさん	250万円	万円		%
Bさん	500万円	万円		%
Cさん	180万円	万円		%
Dさん	2,000万円	万円		%
Eさん	800万円	万円		%
Fさん	350万円	万円		%
Gさん	1,000万円	万円		%
合計	5,080万円			

(参考：所得税の税率) ※令和3年分

課税される所得金額	税率
195万円以下	5%
195万円超～330万円以下	10%
330万円超～695万円以下	20%
695万円超～900万円以下	23%
900万円超～1,800万円以下	33%
1,800万円超～4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

税額は、
課税所得
金額ご
との税
率を掛
けて計
算しま

(課題2) ※便宜上、収入＝課税所得(収入から差し引く経費なし)として計算

各人の立場	①各人の税率	②納める税金
Aさん	10%	152,500円
Bさん	20%	572,500円
Cさん	5%	90,000円
Dさん	40%	5,204,000円
Eさん	23%	1,204,000円
Fさん	20%	272,500円
Gさん	33%	1,764,000円
合計	—	9,259,500円

税額の計算例：課税される所得金額が400万円の場合

- ・195万円×5%=97,500円
- ・(330万円-195万円)×10%=135,000円
- ・(400万円-330万円)×20%=140,000円
- ・97,500円+135,000円+140,000円=372,500円

参考1: 租税教育の体系図(発達の段階と領域、学習内容)

発達の段階		小学校(社会)※中学年	小学校(社会)※高学年	中学校(公的分野)	高等学校(現代社会)	高等学校(政治・経済)
領域	キーワード	学習内容				
社会と国民生活を支える 税の意義・役割 (税の必要性)	・みんなの願い ・生活の安定と向上	健康で良好、安全な生活を守る諸活動、公共施設	わたしたちの暮らしと政治(国・地方公共団体)の働き	市場の働きにゆだねることが難しい諸問題への国・地方公共団体の役割	政府の役割	国民経済における政府の役割
	・公共サービスの財源 ・社会の会費 ・税の使いみち	諸活動のために関係機関や地域の人々が協力していること	政治の働きの費用は税によってまかなわれていること	公共サービスの財源をまかなう税の役割	財源調達など税の機能、税の意義と必要性	財源調達など税の機能、生活を支える税の意義・役割
		地域社会の一員としての自覚をもつこと	身近な生活と税のかかわり	社会の一員(税の負担者)としての自覚をもつこと	納税者として税の使途に関心をもつこと	納税者として税の使途に関心をもつこと
税の大切な きまりや考え方	・国民主権 ・納税の義務	きまりを守ることの大切さ	憲法に納税の義務があること	憲法に定められた権利と納税の義務、納税の義務を果たすことの大切さ	納税の義務を果たすことの意義	納税の義務を果たすことの意義
よりよい社会と 税	・税の公平な分担		税はみんなで分担して納めていること	税の仕組み、 税の種類・分類	公共サービスの受益と負担、 公平な税の考え方 (個人と社会の関係、世代間の公平など)	公平な税の考え方、 税の基本的な仕組み
	・持続可能な社会			財源の課題 (財源の確保と配分、社会保障費)		税・財政の課題 (財源の調達と配分)
社会人と税	・申告納税制度 ・税に関する仕事			自ら正しい申告・納税を すること	申告納税制度、 税に関する仕事	申告納税制度、 税に関する仕事
学習指導要領解説の 税に関わる主な記述(抜粋)		<p>・地域の人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るために関係機関と地域の人々が互いに協力していることや、関係機関に従事している人々や地域の人々が様々な工夫や努力をしていること、それらの諸活動は地域の人々の健康で安全な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。</p> <p>・身近な地域や市で生活している人々が利用する主な公共施設(例えば、市・区役所や町・村役場をはじめ、学校、公園、公民館、図書館、児童館、体育館、美術館、博物館、郷土資料館、文化会館、消防署、警察署、裁判所、検察庁)などを取り上げ、観察、調査したり地図などを活用したりして、施設の名称と位置、働きなどを調べ、白地図に書き表す。</p> <p>・法や自分たちが決めたいきまりを守ることが地域の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を図る上で大切なことに気付くようにする必要がある。</p> <p>・政治の働きと税金の使われ方の関係を取り上げ、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。</p> <p>・国民は権利を行使する一方で、勤労や納税の義務などを果たす必要があることなどを理解できるようにする。</p> <p>・国民の義務は、納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする。</p> <p>・国や地方公共団体に任せた方が効率的であったり、公正であったり、市場の働きだけに任せたままでは解決が難しかったりする問題について具体的に考えさせる。</p> <p>・統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴に触れ、財政を支える租税の意義や税制度の在り方について考えさせる。</p> <p>・国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解させるとともに、税の負担者として租税の使いみちなどについて理解と関心を深めさせるなど納税者としての自覚を養う。</p> <p>・財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げ、財政支出に対する要望は広範多岐にわたり、そのための財源の確保が必要であるが、財源は無限にあるわけではないことに気付かせ、財源の配分について、効率や公正の考え方に基づいて考えさせる。</p> <p>・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか、税の負担者として自分の将来とかがかわらせて考えさせる。</p> <p>・市場経済の中での政府の役割は、国民生活の向上と福祉の充実のために、民間部門では十分には供給することの難しい財やサービスを提供する役割があること、また、所得再分配や経済の安定化を図る役割があることを、近年の経済の動向を踏まえて考察させるとともに、租税を中心とした公的負担の意義と必要性についての理解を深めさせる。</p> <p>・その際、納税が国民の義務であることと理解させるとともに、税金がどのように使われどのようなサービスを受けられているかなどについて納税者としての立場から関心をもつことが大切であることを理解させる。</p> <p>・持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会に対する課題について個人と社会の関係、現役世代と将来世代の関係などに着目させながら探究し、現代社会に対する理解を深めさせる。</p> <p>・現代の政府は、家計や企業の経済活動にゆだねることの困難な部門を引き受けていること、資源の配分、景気変動の調整、所得や資産分配の不平等等を是正するなどの役割を果たしていることを理解させる。</p> <p>・財政(政府による経済)活動を行うには原資が必要であることに気付かせ、租税や国債など財源の調達方法やそれぞれの問題点を理解させるとともに、限られた財源をいかに配分すれば国民福祉が向上するかを考察させ、適切な財政運営が重要な課題であることを気付かせる。</p> <p>・税制度の基本を理解させるとともに、国民生活における租税の意義と役割、公平で適切な負担の在り方について考察させる。</p> <p>・その際、国民が納税の義務を果たすとともに、納税者としてその使途について関心をもつことが大切であることを理解させる。</p>				

○参考2:中学校の学習内容と教材化の視点の例

学習内容 (体系図の 学習内容と 一致)	学習活動			対応 事例 ()は 関連
	素材	つかませ方	教材・資料	
市場の働 きに委ね ることが 難しい諸 問題への 国・地方 公共団体 の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理を自宅でする場合（捨て場所等の問題）と地方公共団体がまとめてする場合（リサイクル、清掃工場）の費用負担（令和元年度国民一人当たりのごみ処理経費約19千円）、環境（健康）への影響の違いなどを考えさせ、環境を守る政治の働きとそれを支える税の役割を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省 HP、市区町村 HP 	
公共サー ビスの財 源を賄う 税の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙の争点 ・教育費 ・外国の消防サービス ・海賊 ・歳出又は税がなかったら ・歴史上の人物の言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙の争点は、税に関わるものや税を必要とするものが多いことに気付かせ、政治の働きの費用を賄う税の意義や役割、必要性を理解させる。 ・公立学校に通う生徒一人当たりの月（年）間教育費の金額の多さに気付かせ、税が役立っていることを理解させる。 ・費用を払わず消火がされなかった米国テネシー州サウスフルトン市の消防の例を取り上げ、日本の公共サービスの財源を賄う税の役割や納税の義務などを考えさせる。 ・人気漫画の題材で生徒のイメージしやすい海賊を取り上げ、日本の税金が政府開発援助（ODA）として海賊対策に使われていることを紹介し、税の使途への関心を高める。 ・社会保障、公共事業、教育、防衛、地方公共団体の財政調整などの歳出項目や、消費税や所得税などの歳入項目を一つ取り上げ、その歳出又は財源がなかったらどのような社会になるかを考える。 ・「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・日本編「福澤諭吉と税」（「学問のすすめ」の中で、税は政府と国民との約束であると述べていること）を紹介し、税への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 ・国税庁 HP ・ネット、ワークシート ・外務省 HP「ODAとは？」他 ・歳入、歳出の円グラフ ・国税庁 HP、お札 	<ul style="list-style-type: none"> ・中-1 ・中-1 ・中-2
社会の一 員（税の 負担者） としての 自覚を持 つこと	<ul style="list-style-type: none"> ・米国独立戦争 ・生徒の一日の生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・アメリカ編「アメリカ人の税に対する思い」（税をきっかけとしてアメリカ独立戦争が起こったため、アメリカ人は税の使いみちなどに強い関心を持っている）を紹介し、納税者としての意識を高める。 ・一日の生活の例を通して身近な生活と税の関わりに気付かせ、安全、安心で豊かな生活など、みんなの願いが地方公共団体や国の働きによって実現されていること、その働きの費用は税で賄われていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁 HP ・副教材、イラスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・中-2

	<ul style="list-style-type: none"> 税金の使いみち レシートの消費税 消費税の行方 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが納めた税金の使いみちを知ることを通して税金がどのように役立っているのかを理解させる。また、税の使いみちは選挙で選ばれた国民の代表者が国会で決めており、国民一人一人が政治や選挙、税の使いみちなどに関心を持つことの大切さを理解させる。 レシートの消費税を確認し、生徒も消費税を払っていることに気付かせる。 消費税の行方を調べることにより（〇〇の購入→お店→税務署（国）→日本銀行→できれば社会保障まで）、税が社会を支えていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歳出の円グラフ レシート 副教材 	
憲法に定められた権利と納税の義務、納税の義務を果たすことの大切さ	<ul style="list-style-type: none"> 税のない生活 税のない国 	<ul style="list-style-type: none"> DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」などを視聴し、税がなかったら（納税の義務を果たさなかったら）どのような生活になってしまうのかを考え、地方公共団体や国の働き、その費用を賄う税の必要性を理解させる。 資源が豊富で税がなかったが、その資源が枯渇したことにより経済が破綻状態となった国（ナウル共和国）を例に取り上げ、日本の憲法の三大義務がなかったら（納税の義務が果たされなかったら）、どのような社会になってしまうのか、社会や国の在り方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国税庁 HP（配信）、DVD ネット、外務省 HP 	<ul style="list-style-type: none"> 中-1
税の仕組み、税の種類・分類	<ul style="list-style-type: none"> 会社員の一日 税率の仕組み サッカーのフリーキック ノーベル賞、オリンピック・パラリンピック 	<ul style="list-style-type: none"> 会社員の一日の生活の例を通して、生活と税との関わりに気付かせ、税の種類を理解させる。＜家＞住民税（住むこと）、固定資産税→＜会社＞法人税、所得税（給料）→＜外出＞自動車税、ガソリン税（揮発油税）、消費税（買い物）、相続税（葬儀場）→＜帰宅＞酒税、たばこ税など 所得税や相続税などの累進税率や、消費税・個人住民税などの比例税率（税率は一定だが、課税対象額が多くなれば税額が多くなる。令和3年4月現在）の仕組みを通して、垂直的・水平的な公平の考え方があることを理解させる。 直接税（税務署に税を納める人と税を負担する人が同じ。所得税など）と間接税（税務署に税を納める人と税を負担する人が異なる。消費税など）について、サッカーの直接フリーキック（他者を介さず直接シュート）と間接フリーキック（他者を介して間接的にシュート）に例えて分かりやすく理解させる。 身近な話題として、ノーベル賞や2020年東京オリンピック・パラリンピックを取り上げ、ノーベル賞の賞金や日本のメダリストの賞金（報奨金）には、法律により税がかからないことに気付かせ、税に対する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 国税庁 HP、副教材 クイズ等 	<ul style="list-style-type: none"> 中-1 中-1・3
財源の課題（財源の確保と	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障費と教育費 	<ul style="list-style-type: none"> 国民医療費などの社会保障関係費と教育費（文教及び科学振興費）を比べ、社会保障関係費の大きさ（多さ）に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務省 HP、副教材 	

<p>配分、社会保障費)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政を家計に例える ・ 1万円札 ・ 借金時計 ・ 街づくりゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の財政を家計に例え、毎年赤字であることや借金の多さに気付かせ、財政の現状と問題を理解させる。 ・ 予算額や借金を1万円札で積み上げた場合の高さを富士山の高さなどと比べて大きさを実感させる（100万円が約1cm、1億円が約1m、1兆円が約10km。積み上げた1万円札を横にすれば〇〇駅～〇〇駅間の直線距離〇〇kmと同じなど）。 ・ プロジェクター等で借金時計を見ることにより、財政赤字の現状を実感させ、財政に対する関心を高める。 ・ 「税の学習コーナー」の「みんなで話し合っ街を作ろう！」の街づくりゲームを通して、税金が使われている施設・使われていない施設、予算が足りなくなった場合の対応などを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務省HP ・ 副教材 ・ ネット ・ 国税庁HP 	<p>(中-1)</p>
<p>自ら正しい申告・納税をすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諺「年貢の納め時」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諺を紹介し、意味を教える（隠れて耕作していた田が見つかり、ごまかしていた年貢を納めなければならなくなったときなどを意味していたが（今でいう「脱税」）、悪事が見つかり刑に服さなければならないときなどに使われるようになった。）。 →諺から、昔、税金は年貢であったことに気付かせる。 →諺から、税金は「取られる」ではなく、「納める」という言い方をすることを理解させる。 →現在、所得税など国税では、自ら正しい申告と納税を行う申告納税制度が採られていることを理解させ、それを支える税に関する仕事や税務行政の取組を紹介する。 		